



# だより

— つながれ ひろがれ —

第168号  
特定非営利活動法人  
環境パートナーシップちば

TEL: 090-8116-4633  
E-mail: info@kanpachiba.com  
<https://kanpachiba.com/>

## 令和7年度「若者が主役の環境保全活動応援事業」報告会を開催しました

令和8年2月28日(土)、千葉県教育会館本館303会議室において、「若者が主役の環境保全活動応援事業 活動報告会」が開催されました。当日は会場46名・オンライン11名の計57名が参加し、午後1時20分から4時10分にわたって活発な議論と交流が繰り広げられました。

**【第1部】令和7年度受賞団体による活動報告**  
二部構成で行われた今回の報告会。第1部では、令和7年度のアイデアコンテストで受賞した3団体が、この数か月の活動の成果・課題・今後の展望を発表しました。

第1位のK.LAB(安房高校)は、千葉県内で増加する外来種「キョン」の胃の内容物(グリーントライプ)を活用したペットフードの製品化に取り組んでいます。試作品の仕上がりは想定以上で、犬の反応も良好だったとのこと。安全性の確認を経て、いよいよ事業化へ向けた歩みを着実に進めています。

第2位の安房拓心サトウキビ組合(安房拓心高校)は、南房総の温暖な気候を活かし、環境負荷の少ない循環型農業の実現を目指しています。受賞後には賞金を活用して沖縄を訪問し、最先端のサトウキビ栽培を実地で学習。今後はバガス(搾りかす)の多様な活用や、地域小学校での栽培指導など、幅広い展開を描いています。

第3位のビーチバ(大網高校)は、九十九里浜の海岸植物ハマボウフウの保全活動を展開しています。活動開始のきっかけは「九十九里浜が縮小している」というショッキングな記事だったといい、「最初は小さかったハマボウフウが大きく育つ姿

を見てうれしい」と成長の喜びを語ってくれました。受賞後は仲間も増え、活動の輪が広がっています。

### 【第2部】過年度受賞団体との意見交換会

第2部では、令和5年度・6年度の受賞団体も加わり、7団体による活発な意見交換が行われました。「コンテストに参加してよかったこと」「賞金の使い道」「活動を続ける上での課題」「後輩の巻き込み方」など、実践的なテーマについて世代を超えた対話が展開されました。

印象的だったのは、各団体がロクに「他の団体の活動を知ることができた」「つながりの中で新しい気づきがあった」と語っていた場面です。千葉大NESOのメンバーからは「コンテストが活動の原点」という言葉が、学生団体グリーンベースからは「挑戦と成長の機会を得られた」という感謝の声があがりました。

オンラインで参加した方々からも「外来種対策を価値創造につなげるアイデアが素晴らしい」「高校生が海岸を守っていることに感動した」と、若い世代の取り組みへの温かい応援メッセージが届きました。

千葉県からは、閉会にあたって補助金・研修機会・来年度予算などの支援メニューが紹介され、若者たちの継続的な活動へのエールが送られました。活動報告会を通じて互いに刺激し合い、励まし合う場が生まれたことで、千葉の若者たちによる環境保全の輪は、着実に広がっています。

(文責:土谷 悠太)



## SDGs 学生フォーラムちば ～SDGs を日常生活で見直したり、意識してもらう～

3月21日(土)に6時間以上に及ぶフォーラムが市川公民館で開催されました。主催は環パ、ちば環境再生基金の助成を受け、学生団体おりがみ環境チームが協力。当日は14名が集まりました。私は当初オブザーバーのつもりで会場に行きましたが、興味に駆られてワークショップの仲間に入れてもらいました。

導入のアイスブレイクは、班のメンバーの共通点の数を競うゲームでした。卒業生が講師をした『1分で伝えたいことを伝えろ講座』では新入生への勧誘の場面を想定し、話の構成や言葉の選び方など実践を交えた、とても役立つ内容でした。

『あなたの生活をのぞき見!? ライフスタイル診断』では自分の行動とSDGsとの繋がりを考えるというテーマで「理想エコタイプ:環境のために何とかしたいんだけど」「トレンドタイプ:それかわいい!欲しい!」「生活ゆるエコタイプ:できることはやってるよ～」「社会モヤモヤタイプ:個人の努力だけじゃなくない?」の4つのうち、あなたのタイプは?というもので、皆さん楽しそう

に取り組んでいました。

『身近な暮らしの秘密!SDGs マインドマップ』では「料理」「化粧品」「ごみ」というテーマでマインドマップを作り、アクションプランを考えました。

これらのプログラムはすべて学生による企画運営で、参加者は飽きることなく、生活とSDGsをじっくりと考えることができました。「SDGsを感じてもらいたい」という趣旨がきちんと形になっていて、感心しました。

若者らしい言葉や、普段取組んでいる事、矛盾に感じている事など聞くことができ、シニアの私とのギャップを感じるも、お互いこの社会の構成員として元気に役割を果たしていきたいと思った一日になりました。



(文責:中村 明子)

## 市民提案型まちづくり事業に学ぶ

持続可能な地域づくりの取組事例として、南房総市の市民提案型まちづくりチャレンジ事業活動についてご紹介します。

南房総観光圏にある南房総市は自然・産業・歴史などさまざまな特色ある地域で、市民が夫々の夢を大切に育み未来を創っていくためには、市民と行政の相互信頼関係に基づいた協働が必要です。そのため、市では平成21年3月に「南房総市協働の街づくり推進指針」を策定し、その一環として「市民提案型まちづくりチャレンジ事業」により、自主的、自発的、公益的な活動を行う市民活動団体を応援してきています。

団体は、経費の一部または全額が補助されるスタートアップのための「はじめの一步コース」(最大5万円。1回限り)と、活動を更に充実・発展させるための「チャレンジコース」(最大30万円、3回まで)の2種類のどちらかを選んで提案を申請します。

申請提案された事業は、市民協働課のアドバイスも受けながら、有効性、先駆性、独創性が増すよ

うに、専門家を招いた講演会、勉強会、広報活動の実施等のブラッシュアップを経て、公開プレゼンテーションを行います。

こうして採択された事業の1年間の活動発表が公開で行われます。令和7年度の「市民提案型まちづくりチャレンジ事業」活動報告会は3月20日に開催され、子ども、情報発信、里山、防災などをテーマとした9団体が発表しました。

事業申請、提案から実施活動・発表に至るまでの活動を通じた、地域の情報共有や異業種連携協力など貴重な体験のプロセスこそが、大きな学びであり、地域住民としての民意が高まる学びの仕掛けがあると思います。

(文責:重 政子)



## 1月29日、みどり産業株式会社（市原市）を見学しました

チーム530 大野 伸夫

私たち『チーム530（ごみゼロ）』は、浦安市でごみ減量・再資源化を学び・実践し・拡大していこうと活動している市民グループです。

「今朝出したごみは、どうなるんだろう？」このあまりにも素朴な疑問こそ『チーム530』の原点。私たちは毎日のように家庭からごみを排出しています。まずは「現状・現場・現実はどうなっているのか知ること」と施設見学を位置づけ、メンバーだけでなくより多くの市民の方と「視る・学ぶ」を大切にしています。

ごみ問題の2つの大きな課題、「プラごみ」と「食品ロス（食品リサイクル）」の現場、今回の施設は主に事業系を扱っているところですが、私たち市民生活と無関係ではない。

◆リサイクル処理施設で主に廃プラスチック・発泡スチロールの中間処理を見る。見学しやすいように、作業休憩の合間にプラスチック系の容器や梱包材が搬入され破碎・圧縮・減容固化している現場を近くで見ることができた。分別が不完全だ

とラインを停止させたり機械が損傷したり。出す側（排出者）が資源として、意識していることの大切さを実感。

◆午後からは長柄工場で食品リサイクル施設を見学。ファミレスやコンビニなどから搬入される食品残渣がパッカー車からたい肥化ラインの受入口に。現場には瑞々しい野菜や果物が目につく。我が家の台所に思いを巡らせてしまう。手前どりをせず「特売」に目がくらみ不必要な買い物を反省。

現場では時間をかけて食品残渣がたい肥に生まれ変わり、そのたい肥は商品化するだけでなく、隣接地のビニールハウスや畑でケールなどを栽培し循環を実践。



## ドローダウン/地球温暖化を逆転させる 100の方法」を知ろう！

温暖化防止うらやす 川島 謙治

「温暖化防止うらやす」は、浦安を中心として温暖化防止活動をしています。

本年度のイベントとして、7月に親子を対象にソーラークッカー工作&実験、12月に浦安市の福祉バスを利用してつくば市のJAXA（バスで管制室などの場内見学）他の最先端科学施設めぐりを行い、1月31日に表題の講演会を開催しました。講師は、アメリカの環境保護活動家であるポール・ホーケン氏の著書『ドローダウン：地球温暖化を逆転させる 100の方法』の翻訳協力者である鈴木 核氏です。

講演会は鈴木氏のお話とグループワークの形で進められ、ホーケン氏が提唱したドローダウン：地球温暖化逆転の100の解決策のうち、自分がやっていること、関心があること、もっと知りたいことにマークしたあと、グループ毎で話し合い、耳を傾け合って意見交換をしました。さらに温暖化対応のシナリオとして、①それまでの延長、②ドローダウンシナリオ、③最善シナリオが考えられ

ることについて理解することができました。

参加者は、浦安市だけでなく県内の各市からもご参加いただき、地球温暖化に対して意見交換をすることで気づきを得たうえ、各参加者間での交流を通じて様々な情報交換をしていただくことができました。

なお、ホーケン氏の著書は『ドローダウン：地球温暖化を逆転させる 100の方法』の後、『リジェネレーション：地球危機を今の世代で終わらせる』『カーボン：炭素は敵ではない。それは鍵であり希望の元素だ』が発刊されています(何れも、鈴木核氏が翻訳協力実施)。

是非、ご購入頂き、できること、やりたいことを見つけていただければ幸いです。



## 水草バスターズ in 平塚 2025

NPO 法人しろい環境塾 理事長渡邊康夫

### ■年度活動について

- ・7月：スタッフ向けに「我孫子市谷津ミュージアム見学・勉強会」を実施  
他団体等のナガエツルノゲイトウ対策を学ぶ。
- ・企業のCSR活動の一部としてナガエツルノゲイトウの駆除を実施、焼却処分
- ・8月：水草バスターズ in 平塚第3回として駆除作業を実施

2月・3月に同じ場所で、ナガエツルノゲイトウの根を駆除した場所では繁茂状況が低減していたが、用水の溢水による休耕田の湿潤環境が温存され冬期に作業で駆除できなかった場所での繁茂は顕著であった。

- ・8月下旬の農業用水供給停止後、用水路脇の溢水防止用土留めの補修実施
- ・2026年2月：水草バスターズ in 平塚第4回としてナガエの根の駆除作業を実施  
クリーンセンターで焼却処分

4回の総参加者は延会員152名、その他一般市民・活動団体参加者・行政機関を含め128名であった。

### ■今後について

・しろい環境塾のナガエツルノゲイトウの駆除場所は環境教育や市民交流活動として水田耕作を行っているため除草剤等を使用しないで栽培している。今後ともその方針は変えないことを原則とする。土を掘り起こしてナガエツルノゲイトウの根を除去することは効果があるが人力による除去には多大な労力を必要とし継続に困難が予測できる。

・8月と2月に水草バスターズ in 平塚を中学生ボランティアの参加を要請し、行う。

今後は防草シートの敷設・休耕田畑の乾燥化等を検討・実施する。

また、今後はしろい環境塾が管理活用している他の水田・休耕田畑の駆除を検討・実施していく。



## シンポジウム「利根川近代改修150年の軌跡と未来」

明治8年（1925年）に利根川水系の江戸川で低水工事をしてから150年経ったとのことで、国交省関東地方整備局の主催で標記シンポジウムが開催され、オンラインで聴講しました。

前半は、関東地方整備局の室永武司河川部長の話題提供「利根川近代改修の歩み」と土木研究所の清水義彦指導監の基調講演「利根川の治水—これまでの軌跡と未来について」で、後半は4名のパネリストによるパネルディスカッションでした。後半が興味深かったので、ご報告します。

気象予報士の伊藤みゆきさんからは異常気象で大降雨が増えていること、また、台風は移動していくので大雨の継続時間は長くないが、前線（線状降水帯）は1か所に留まるため被害が大きくなるとし、ハザードマップの重要性が話されました。室永さんからは治水の変遷として、①自治体ごとに局所対応、②上下流を一体として、下流から対

応、③（江戸を守るため）平野全体を考えて対応、④カスリン台風以降は、平野+山地、すなわち流域を考えて対応、と変化していることが話されました。

千葉県立関宿博物館の糸原清さんは、昔は洪水がある前提で、水塚、輪中などで備え、霞堤、越流堤などで減災していた、さらに、昔は流域の村々が堤防の補修をしていたが、今は行政頼みになって、川と人とのつながりがなくなったと話されました。

野田市長の鈴木有さんは、野田・流山が利根川の舟運により栄えたこと、また、三方を川で囲まれて内水対策が重要と話されました。

最後に、「川との関わりが減っている、かわまちづくり（ハードとソフト）で、もっと川に親しもう」とまとめられて閉会しました。

（文責：小倉 久子）

参加報告

**令和7年度千葉県地球温暖化防止活動推進員等研修会**

日時：2026年2月10日（土）14：00～16：00

会場：ホテルプラザ菜の花（千葉市中央区長洲1-8-1）

主催：千葉県環境生活部温暖化対策推進課

プログラム

【開催趣旨】千葉県環境生活部温暖化対策推進課

【活動事例紹介】

・地球温暖化防止活動銚子 ・いちかわドローダウン勉強会 ・edf アースドクターふなばし  
 ・野村雅之氏 ・青柳利江氏 ・平手彰氏  
 ・(株) やちよ未来ファーム ・(一社) やちよ未来エネルギー ・四街道ストップ温暖化委員会

年度末になると、温暖化防止活動推進員を対象に恒例の研修会（交流会）が開催されます。

研修会は、オンラインと会場の2つの形態で行われ、会場開催に参加しました。今年は、団体以外に個人の活動発表もあり、9事例の温暖化防止活動を知ることができました。

20年以上活動している、四街道ストップ温暖化委員会、地球温暖化防止活動銚子では、地域の小学校や市民対象の環境講座、環境フェスタ、防災フェスタなど10名弱の推進員で活動を継続されていました。銚子の尾辻氏とは、15年ぶりの再会でした。懐かしさと同時に、活動を継続されているお姿に元気をいただきました。個人発表の青柳氏からは、長年廃食油の回収を継続し、幼稚園や保育園などに積極的な活動が印象に残りました。地球温暖化防止活動の普及啓発も、農業、まちづくりなど多様な視点からの実践を通して、展開されているのを知ることができました。推進委員のお互いの活動を知り、交流し、連携するなど、これからの活動がより豊かに、強くできると思えた研修会でした。（文責：桑波田 和子）

参加報告

## 協働のまちづくりセミナーin 葛南地域 地域住民とつくるまちづくりの魅力と可能性を考えよう！

日時：2026年2月17日（火）13：30～16：30

会場：サンロード津田沼ビル6階大

主催：千葉県環境生活部県民生活課

プログラム

【講演】

「担い手不足を嘆く前に～人が集まる・育つ『開かれた組織』への変革とパートナーシップ」  
 （武蔵大学社会学部メディア社会学科教授 粉川一郎氏）

【事例発表】

「まちにたくさんの主人公を！」（(特非)アクションポート横浜代表理事 高城芳之氏）

【交流会】

グループに分かれ講師と発表者を交えて意見交換

開催趣旨は、地域コミュニティの活性化や持続的発展に向けた、地域住民や若者を交えたまちづくりに焦点を当て、講演や事例発表を通して、組織がバランスの観点から見た「新たな人材を巻き込む仕組みづくり」や、新旧住民や若者が地域で輝く「出番」のつくり方等について学ぶ。

粉川講師からは、日本のボランティア、寄付、社会貢献意識が、外国の事態と比較して低い。日本が変わるには、人と関わり合う、人に頼むことを恐れないこと。人の潜在的な思いが行動を変える。人々が目的を一つにし、成果を確認し合い、お互いを高め合い、常にニコミュニケーションを取る等が重要。

高城氏の「若者も地域の一員であり、足りないのは参加のデザイン」は心に残りました。ボランティアに意欲的な若者は増えている一方、活動したいが情報やきっかけがない若者が多い。学生×NPO。若者団体×商店街等の事例紹介や若者をつなぐポイントなども参考になりました。「若者は関係性と場づくりがあれば輝ける！」「継続や成功よりもプロセスを大事に！」大切なキーワードです。

（文責：桑波田 和子）

## 千葉県佐倉里山自然公園整備活動 2026

今年も IVUSA (国際ボランティア学生協会) のみなさんが、2月17日～19日の3日間、総勢約70名で里山保全活動に来てくれました。印旛沼クリーン大作戦として毎年夏にナガエツルノゲイトウ駆除をしてきている IVUSA が、印旛沼をもっと良くするためには沼の周囲の「流域」の環境をよくすることが大切だということに気づき、2023年から佐倉市畔田の佐倉里山自然公園の整備を手伝ってくれているのです。

今年で4年目になるこの活動は、佐倉市をはじめたくさんの地元協力団体によって支えられています。中でも、佐倉里山大学の関係者のみなさんのお力が大きいようにお見受けしました。今年は、私も事前打ち合わせ会に同席させていただいたのですが、協力団体の方たちが、活動メニューの提案から準備、段取りなどまで親身になって考えてくださっていて、本当に頭が下がりました。

里山保全が初体験の学生さんも多く、まずは地元のみなさんによる保全作業のやり方の指導から始まります。やり方をマスターすれば、あとは若い

パワー全開で、どんどん竹林が切り倒されて、すっきりさせていきます。

伐採した竹は、いつもの竹のジャングルジムやブランコのほか、今年は竹灯籠も作りました。太い孟宗竹を輪切りにして、ドリルで模様を彫り込んだ竹灯籠は、点灯するととても美しく、IVUSAは大満足でした。もちろんそのほかの竹も、竹炭、竹粉にして、無駄にはしません。

IVUSAの活動には、OBやOGも応援に駆けつけてくれるのも嬉しいことです。地元の方たちとのつながりも年々強まっています。IVUSAのみなさん、これからもどうぞよろしく！

(文責：小倉 久子)



## 参加団体の多様性も環境改善を支えている印旛沼流域交流会

ユーカリ木こり倶楽部 南條光宏

3月7日の印旛沼流域交流会（主催：印旛沼流域水循環健全化会議 場所：イオンタウン・ユーカリが丘）に、今年も参加させていただきました。

昨年は地理的に印旛沼流域の一区画の里山で活動している団体といった参加意識だった私たち倶楽部も、この一年間に水辺エリアとの関わりが増えました。印旛沼～東京湾を繋ぐ新川～花見川流域一帯の魅力を高めるプロジェクトによる「うみさとキッチンカー」の営業を担い、沼フェス（5月印旛沼で開催）をはじめ流域のあちこちのイベントへ出かけていきましたし、佐倉里山自然公園内での竹炭づくりで消火用の水を汲み上げるようになった湧水池の流れが、上手繰川を通じて印旛沼へ繋がっていることから、その水源の里山保全・整備をしている自覚も高まりました。

こうしたことに加えて、流域交流会で諸団体のみなさんと一年ぶりに再会する親しみ感もあり、「印旛沼をとりまく」団体として繋がる仲間意識を感じる事が出来ました。印旛沼にどっぷり浸かって活動されてる方々、各所水源の環境課題に取り

組まれておられるみなさん、環境負荷が少ない生活商品の使用を通じて沼の水質改善に取り組まれておられたり、流域の里山でホタルの自生地を守っておられる方々。さらには水辺のスポーツアクティビティ団体さんとか、参加者も多種多様。各団体の多様性と、こうした交流会が続くことも、コモンズ（共有財産）としての印旛沼の環境改善を持続させ繋いでいくことに貢献したいと思います。次回の交流会も楽しみにしつつ、それぞれの持ち場で活動を続けていきたいと思っています。



県内の環境保全活動人（団体）紹介 — 81 —  
おききました！ この人・この団体



## 佐倉で始まった里山守人養成講座「佐倉里山大学」

公益財団法人 佐倉緑の基金 原 慶太郎

各地の里山で地域の自然や生きものたちの保全を手がけてきた団体から、構成員の高齢化によって活動の継続を危ぶむ声がよく聞かれるようになって来ました。佐倉市では、2024年、里山の保全管理を進める人たちを養成する「佐倉里山大学」が始まりました。その背景と取組について紹介します。

里山は長い年月をかけて農業や林業が営まれながら作り上げられてきた半自然（二次的自然）の景観です。1970年代以降、農林業の衰退によって、林地や農地が放置・放棄され荒廃しつつあった里山ですが、1990年代頃に自然環境や野生動植物の保全に関わって活動する団体が結成され、観察会や調査、さらには谷津や里山林の整備が行われてきました。この活動の中心となった多くは退職後のシニア世代でした。2000年から10年間、千葉県で里山シンポジウムが開催されるなど、新たな里山管理のサイクルが回り始めました。

しかし、2010年代に入ると、構成員の高齢化による活動の困難を訴える声を耳にする機会が増え、サイクルを回す新たな担い手を確保することが求められるようになってきました。2022年頃、佐倉市では「緑の基本計画」策定の計画が進められおり、この中で、生物多様性保全、ネイチャーポジティブや緑にかかわることでウェルビーイングを実現することなどとともに、緑の保全に関わる人材育成についても計画のなかに項目として取り上げられました。市の施策と市民の想いとが同じ方向性をもって動き始めました。佐倉市が主宰し、財源として、当時、話題となっていた「森林環境譲与税」を利用することとし、緑の基金が運営にあたる、それが「佐倉里山大学」です。

里山大学は一ヶ月に1回の座学の講義と野外での実習からなり、基礎課程と専門課程からなる2年制で、里山を維持管理する「里山守人」を養成す

る講座です。敢えて「大学」を名乗ったのは、実技の習得だけにとどまることなく、講義を加えることで、里山管理における意思決定を自分自身で行うことのできる「里山守人」を養成するためです。学外からの講師と講義によって、1年次で刈払機、2年次でチェーンソーの認定証（講習修了証）を取得できます。講義では、里山の生態に関する基本的な事項から、里山の順応的管理、さらには野生動物の対応、景観スケールの保全管理について学びます。佐倉市西部にある佐倉里山自然公園を実習の場として、順応的管理のための毎木調査や、樹木伐採の実習などを行っています（写真）。

佐倉里山大学の建学の精神を次のように掲げてあります。「持続可能性とレジリエンス（回復性）を高めた里山をつくるために、里山の歴史を学び、人と自然の関わりを知り、次の世代につなぐ人をつくる。」2026年1月31日に一期生25人が卒業し、里山守人の会をつくって里山管理にあたっています。卒業生たちが入学した大学生を指導しながら里山守人を養成することが次の目標です。4月に入ったら佐倉市のホームページで入学生の募集が始まります。関心をお持ちの方、ぜひ入学してみてください。



実習「樹木処理の実際」の玉切

## 運営会議報告

### 2月度運営会議

2月12日(木) 20:00~21:55  
会場：オンライン (Zoom)

#### 【報告】

- ・若者事業 受賞団体報告会 千葉県プレスリリース
- ・だより167号 送付・配信 2/3
- ・いちほら環境フェスタ実行委員会 1/30  
屋内展示 6/1~6/6 屋外出展 6/6 アリオ市原
- ・ナガエツルノゲイトウ駆除 2/7 しらい環境塾
- ・会員交流サロン開設 2/8 他

#### 【協議】

- ・だより168号 構成
- ・ちば環境再生基金 SDGs 学生フォーラム 3/21
- ・会員交流サロン開設 3/8
- ・若者事業  
R7年度応募団体オンライン交流会 2/26  
受賞団体報告会 2/28
- ・拠点活動 南房総市内 3/15  
南房総市市民活動発表会開催 3/20
- ・印旛沼流域交流会 3/7 ・通常総会 5/23 他

### 3月度運営会議

3月12日(木) 20:00~21:45  
会場：オンライン (Zoom)

#### 【報告】

- ・若者事業 オンライン交流会 2/26  
受賞団体報告会 2/28
- ・いちほら環境フェスタ実行委員会 2/27
- ・令和8年度若者事業受託事業者応募
- ・印旛沼流域交流会参加 3/7
- ・印旛沼流域水循環健全化会議 3/10
- ・会員交流サロン開設 3/8 他

#### 【協議】

- ・だより168号 進捗
- ・ちば環境再生基金事業 SDGs 学生フォーラム
- ・会員交流サロン開設 4/12
- ・令和8年度若者事業受託事業者プロポーザル  
拠点活動 南房総市内 3/17
- ・第9回(2026)年度通常総会 5/23  
R8年度事業検討
- ・理事会開催 3/18

## お知らせ

### 【第9回通常総会のご案内】

NPO 法人環境パートナーシップちば第9回(令和8年度)通常総会を、以下の日程で開催しますので、予定しておいてくださるようお願い申し上げます。  
正会員の皆様には、4月末に詳細をご案内させていただきます。

開催日時：令和8年5月23日(土) 14時~15時  
開催場所：千葉県教育会館 202会議室

総会は会場及び Zoom(インターネット会議システム) のハイブリッド形式で開催させていただきます。  
総会終了後(15:10~16:15)、交流会を行います。

### 【第11回いちほら環境フェスタ】

#### 1 開催日程

(屋内展示) 令和8年6月1日(月)~6月6日(土)  
10:00~ 21:00 アリオ市原営業時間中、  
(最終日は15:00まで)  
(屋外出展):6月6日(土) 10:00~15:00

#### 2 開催場所

(屋内展示):アリオ市原1階  
サンシャインコート(エスカレーター間)  
(屋外出展):サンシャインアベニュー

3 問い合わせ:いちほら環境フェスタ実行委員会  
(市原市環境部環境管理課)  
(TEL 0436-23-9867)

### 「特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば」

環境活動の推進と充実を図るため、市民・団体・企業・行政・学校とのパートナーシップのもと、「持続可能な開発に向けた目標(SDGs)」や「持続可能な開発のための教育(ESD)」の視点を意識して、さらなる持続可能な社会の実現をめざすことを目的とする。

### お問い合わせ

事務局：〒262-0006 千葉市花見川区横戸台 21-13 特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば  
Tel : 090-8116-4633 E-mail : info@kanpachiba.com  
ホームページ : <https://kanpachiba.com/>  
※会費や会員申し込みなどの情報は上記 HPでご確認ください。